

令和4年度全国学力・学習状況調査の結果の概要について

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 現状（前回の調査結果）

- 小学校は、国語において、平均正答率が全国を上回っている。算数において、平均正答率が全国と同程度である。
- 中学校は、国語及び数学において、平均正答率が全国と同程度である。

3 概要

(1) 調査対象

	調査実施 学校数	集計 対象者数
小学校第6学年，義務教育学校前期課程第6学年， 特別支援学校小学部第6学年	449校	22,755人
中学校第3学年，義務教育学校後期課程第3学年， 中等教育学校第3学年，特別支援学校中学部第3学年	239校	20,213人

(2) 調査日

令和4年4月19日（火）

(3) 調査結果（詳細は別紙）

- 小学校は、全ての教科において、平均正答率が全国を上回っている。
- 中学校は、数学において、平均正答率が全国を下回っている。国語及び理科において、平均正答率が全国と同程度である。

		小学校			中学校		
		国語	算数	理科	国語	数学	理科
平均正答率 (%)	広島県	67	64	66	69	50	49
	全国	65.6	63.2	63.3	69.0	51.4	49.3

- 平均正答率が全国を下回った中学校の数学については、素因数分解や連立方程式、一次関数の変化の割合などの、基礎的な知識の理解や計算力に課題がみられた。

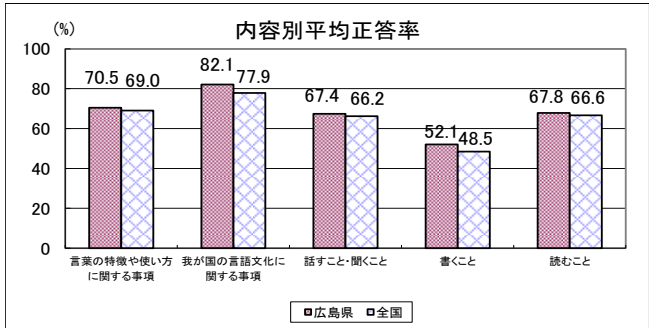
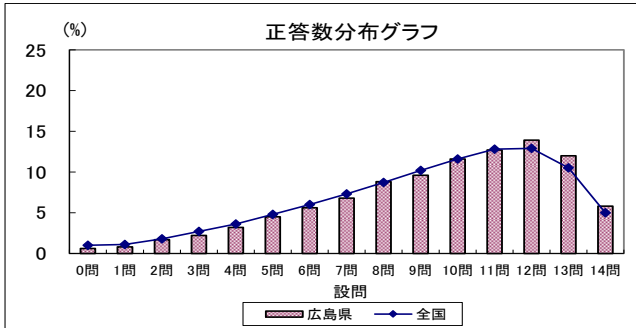
(4) 調査以降の対応

- 令和4年9月30日に、教員，市町教育委員会を対象とした研究協議会をオンラインで実施し、各学校が課題に応じた授業改善に取り組めるよう支援した。

小学校 国語

○ 国語については、平均正答率が67%で、全ての内容において平均正答率は全国平均より高い。

国語



正答率上位2問

- 【話し合いの様子の一部】における谷原さんの発言の理由として適切なものを選択する (設問 1一) 86.8% (全国 85.5%)
- 【話し合いの様子の一部】で、中村さんが前田さんに質問し、知りたかったことの説明として適切なものを選択する (設問 1三) 85.5% (全国 84.7%)

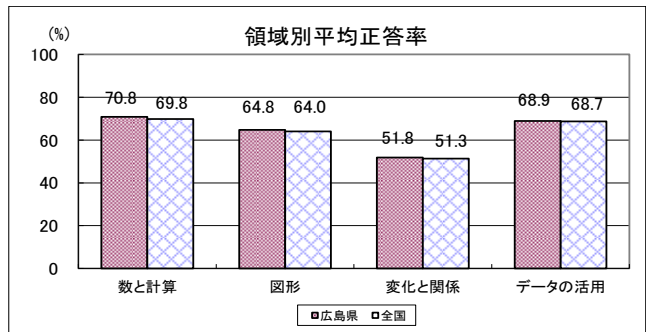
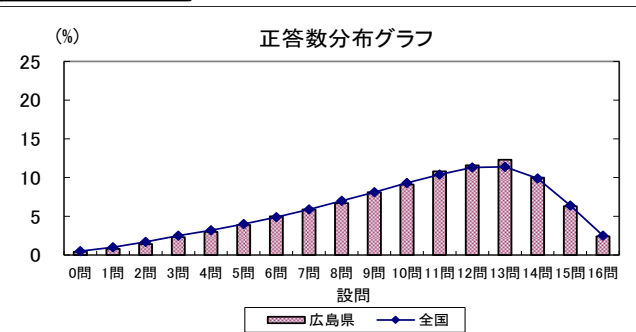
正答率下位2問

- 【伝え合いの様子の一部】を基に、【文章2】のよさを書く (設問 3二) 40.8% (全国 37.7%)
- 「ごみ拾い」か「花植え」かのどちらかを選んで、でどのように話すかを書く (設問 1四) 49.4% (全国 47.7%)

小学校 算数

○ 算数については、平均正答率が64%で、全ての領域において平均正答率は全国平均より高い。

算数



正答率上位2問

- 1050×4 を計算する (設問 1 (1)) 92.3% (全国 92.4%)
- 長方形のプログラムについて、向かい合う辺の長さを書く (設問 4 (2)) 83.9% (全国 83.2%)

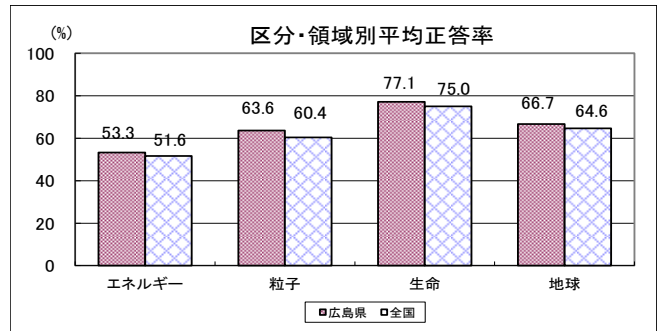
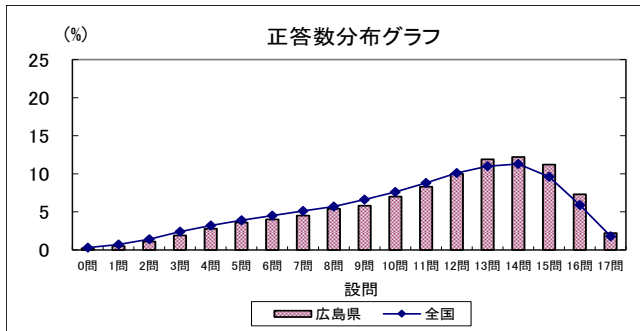
正答率下位2問

- 果汁が含まれている飲み物の量を半分にしたときの、果汁の割合について正しいものを選ぶ (設問 2 (3)) 21.5% (全国 21.4%)
- 85×21 の答えが 1470 より必ず大きくなることを判断するための数の処理の仕方を選ぶ (設問 1 (4)) 34.9% (全国 34.8%)

小学校 理科

○ 理科については、平均正答率が66%で、全ての区分・領域において平均正答率は全国平均より高い。

理科



正答率上位2問

- 見いだされた問題を基に、観察の記録が誰のものであるかを選ぶ
(設問 1 (1)) 93.3% (全国 92.9%)
- 冬の天気と気温の変化を基に、問題に対するまとめを選ぶ
(設問 4 (1)) 83.7% (全国 82.3%)

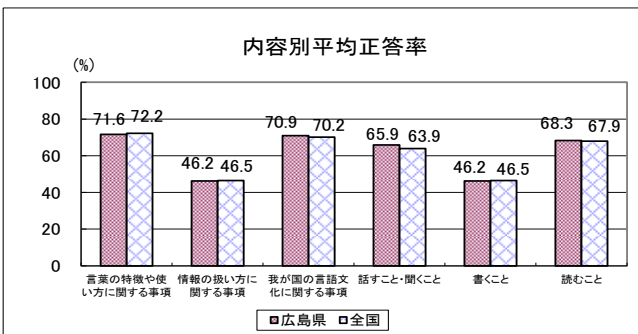
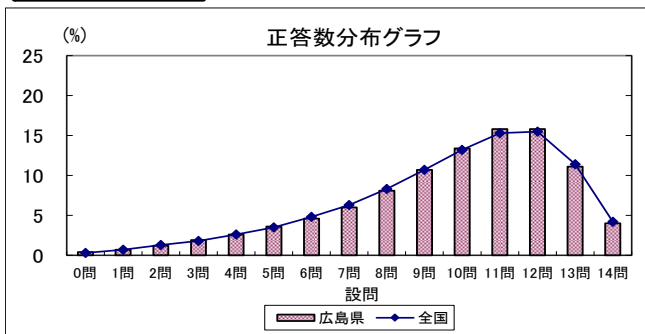
正答率下位2問

- 光の性質を基に、鏡を操作して、指定した的に反射させた日光を当てることができる人を選ぶ
(設問 3 (1)) 28.6% (全国 27.8%)
- 問題に対するまとめから、その根拠を実験の結果を基にして書く
(設問 3 (4)) 38.0% (全国 35.1%)

中学校 国語

- 国語については、平均正答率が69%で、内容別では、「我が国の言語文化に関する事項」、「話すこと・聞くこと」、「読むこと」の平均正答率は全国平均より高いが、「言葉の特徴や使い方に関する事項」、「情報の扱い方に関する事項」、「書くこと」の平均正答率は全国平均より低い。

国語



正答率上位2問

- 最初に書いた文字の漢字のバランスについて説明したものとして適切なものを選択する (設問 4二) 90.4% (全国 90.1%)
- 「途方に暮れた」の意味として適切なものを選択する (設問 3二) 83.2% (全国 84.0%)

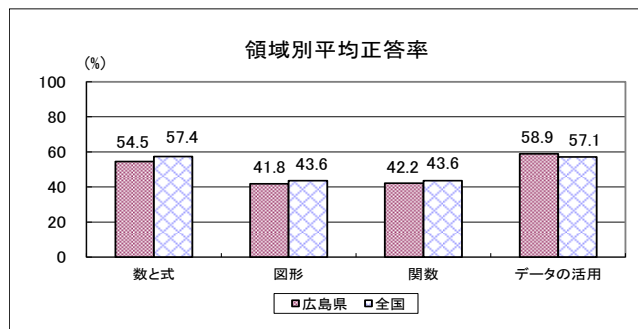
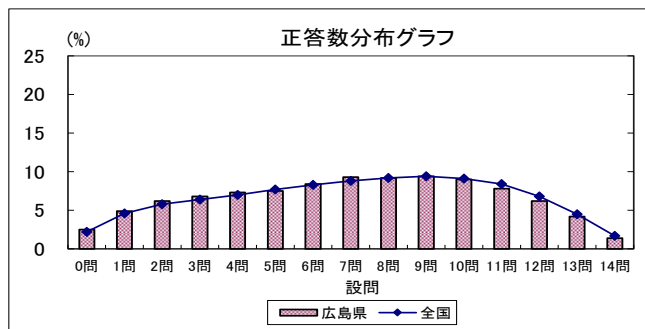
正答率下位2問

- 行書の特徴を踏まえた書き方について説明したものとして適切なものを選択する (設問 4一) 40.6% (全国 39.4%)
- 「陽炎みたいに揺らめきながら」に使われている表現の技法の名称を書き、同じ表現の技法が使われているものを選択する (設問 3一) 45.5% (全国 52.5%)

中学校 数学

- 数学については、平均正答率が50%で、領域別では、「データの活用」の平均正答率は全国平均より高いが、「数と式」、「図形」、「関数」の平均正答率は全国平均より低い。

数学



正答率上位2問

- 容器のふたを投げたときに下向きになる確率を選ぶ (設問 5) 83.5% (全国 83.3%)
- 同じ偶数の和である $2n+2n=4n$ について、 n が9のときどのような計算を表しているかを書く (設問 6 (1)) 71.8% (全国 73.8%)

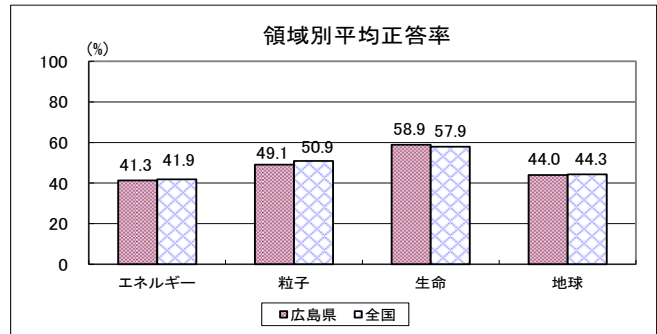
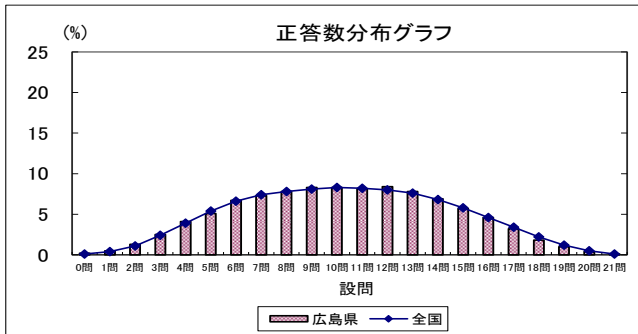
正答率下位2問

- $\angle ABE$ と $\angle CBF$ の和が 30° になる理由を示し、 $\angle EBF$ の大きさがいつでも 60° になることの説明を完成する (設問 9 (2)) 10.8% (全国 12.5%)
- 変化の割合が2である一次関数の関係を表した表を選ぶ (設問 4) 33.3% (全国 37.9%)

中学校 理科

- 理科については、平均正答率が49%で、領域別では、「『生命』を柱とする領域」の平均正答率は全国平均より高いが、「『エネルギー』を柱とする領域」、「『粒子』を柱とする領域」、「『地球』を柱とする領域」の平均正答率は全国平均より低い。

理科



正答率上位2問

- タッチパネルの反応に水が関係しているかを調べるために、変える条件と変えない条件を適切に設定した実験操作の組合せを選択する
(設問 1 (2)) 78.4% (全国 78.5%)
- ダイオウグソクムシとダンゴムシのあしの様子が異なることについて、生活場所や移動の仕方と関連付け、その理由を説明する
(設問 4 (1)) 76.1% (全国 74.5%)

正答率下位2問

- おもりに働く重力とつり合う力の矢印を選択し、その力について説明する
(設問 5 (1)) 12.8% (全国 15.3%)
- 水素を燃料として使うしくみの例の全体を動かせるおもとを指摘する
(設問 3 (3)) 24.6% (全国 24.8%)

課題が見られた問題（中学校数学）

【関数】変化の割合が2である一次関数の関係を表した表を選ぶ（大問4）

4 一次関数の変化の割合の意味を理解しているかどうかをみる問題

4 下のアからエまでの表は、 y が x の一次関数である関係を表しています。この中から、変化の割合が2であるものを1つ選びなさい。

正答 **ア**

x	...	-6	-4	-2	0	2	4	6	...
y	...	-11	-7	-3	1	5	9	13	...

イ

x	...	-6	-4	-2	0	2	4	6	...
y	...	-5	-3	-1	1	3	5	7	...

ウ

x	...	-6	-4	-2	0	2	4	6	...
y	...	-2	-1	0	1	2	3	4	...

エ

x	...	-6	-4	-2	0	2	4	6	...
y	...	-7	-4	-1	2	5	8	11	...

県	33.3%
全国	37.9%

【解答類型とその反応率】

1 段目：広島県（公立）の生徒数の割合（%）
2 段目：全国（公立）の生徒数の割合（%）

問題番号	問題の概要	解答類型									
		1	2	3	4	5	6	7	8	99	無解答
4	変化の割合が2である一次関数の関係を表した表を選ぶ	33.3	36.5	16.9	12.6					0.2	0.5
		37.9	32.5	16.9	12.1					0.2	0.4

1	◎	ア	と解答しているもの。
2		イ	と解答しているもの。
3		ウ	と解答しているもの。
4		エ	と解答しているもの。
99			上記以外の解答
0			無解答

【指導改善のポイント】

⇒ 伴って変わる二つの数量 x , y の変化の様子を表から読み取り、一次関数 $y = ax + b$ の変化の割合を求めることができるように指導することが大切である。その際、 x , y の増加量やその割合を調べる活動を通して、変化の割合の意味を理解できるようにすることが大切である。

変化の割合を指導する際には、形式的に変化の割合を計算して求めることに偏らないようにするとともに、変化の割合を事象の考察やその表現を適切に用いることができるようにすることが重要である。